

適期の中耕培土を行い、生育促進を図りましょう！

6月上旬から中旬にかけて好天が続き、土壌水分も適度にあったことから、出芽苗立ちは概ね良好です。気象庁によると、この先1か月の降水量はほぼ平年並みの見込みとなっています。晴れ間を見て遅れずに中耕培土を実施し、大豆の生育量確保と雑草防除を図りましょう。

1. 中耕培土のポイント

中耕培土には、①雑草の抑制、②土壌の排水性・通気性確保、③根域拡大と根粒の着生促進、④倒伏防止といった効果があり、大豆の栽培で欠かすことのできない作業です。

3葉期と6～7葉期の2回、遅れずに実施しましょう。

1回目：本葉3葉期頃（6月下～7月上旬）

- ① 土壌処理剤の効果持続期間(処理後2～3週間)以降に実施する。
- ② 子葉節まで軽く培土する。

2回目：本葉6～7葉期頃（7月中下旬）

- ① 初生葉節まで培土。高さは15cmが目安。
→株元が凹状になると水が停滞し、湿害の原因に。
- ② 開花前までに作業を終える。
→やむを得ず作業が遅れる場合は葉や根を痛めないように慎重に作業。
- ③ 追肥する場合、緩効性肥料を用いる。
→LPコート70で窒素成分6～8kg/10a施用。

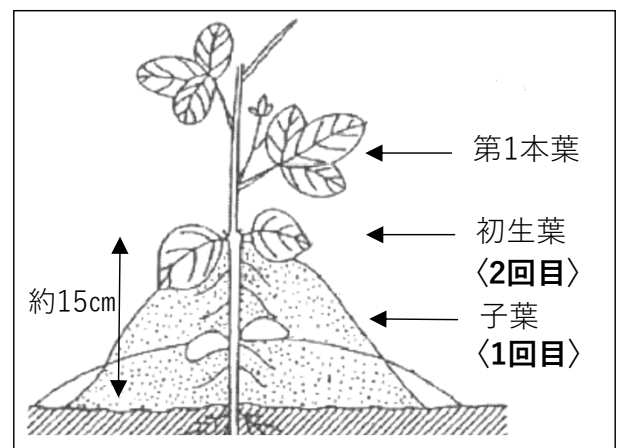


図1 中耕培土の方法

表 培土期追肥の効果

区 (培土期追肥)	追肥N量 (kg/10a)	百粒重 (g)	子実重 (kg/10a)
なし	0.0	23.9	321 (100)
LP70	7.5	25.0	388 (121)
硫安	7.5	24.6	357 (111)

品種:スズユタカ 基肥N量:2.5kg/10a。

子実中の()の数字は「なし区」対比。

(S61 山形農試)

★排水対策は万全ですか？

図2のように明渠と排水口を確実につなぎ、圃場内に停滞水が発生しないようにしましょう。

湿害回避のポイントは、
降雨後いち早く停滞水を排水すること！

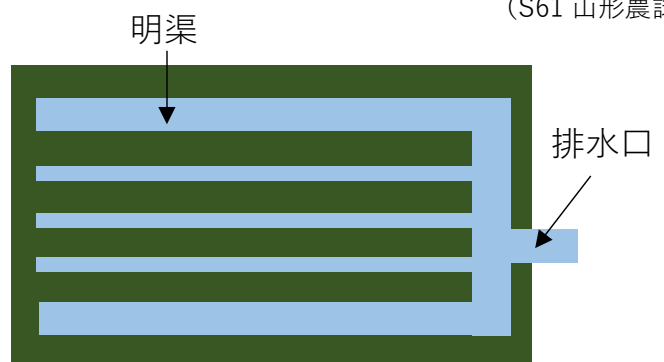


図2 明渠と排水口のつながり

2. 雑草防除

中耕培土による雑草防除を基本とし、雑草の発生量や草種に合わせて除草剤を選定し、**雑草が大きくなならないうちに使用します。**

主な除草剤の使用法

除草剤名 (本剤の使用回数)	適用雑草	使用方法	使用時期	10a当たりの使用量	
				薬量	散布液量
ワンサイドP乳剤 (1回)	一年生 イネ科雑草 (スズメノカタビラを除く)	雑草 茎葉散布 または 全面散布	雑草生育期 (イネ科雑草の3~5葉期、 収穫60日前まで)	75 ~100ml	通常散布： 50~100ℓ 少量散布： 25~50ℓ
ポルト フロアブル (2回以内)			雑草生育期 (イネ科雑草の3~10葉期、 収穫30日前まで)	200 ~300ml	
大豆バサグラン 液剤(ナリウム塩) (1回)			一年生雑草 (イネ科を除く)	だいたいの2葉期~開花前 (雑草の生育初期~6葉期) 但し、収穫45日前まで	100 ~150ml
	畦間雑草 茎葉散布	だいたいの生育期 (雑草の生育初期~6葉期) 但し、収穫45日前まで		300 ~500ml	
バスタ 液剤 (3回以内)	一年生雑草	雑草 茎葉散布	収穫28日前まで 畦間処理：雑草生育期 株間処理：だいたいの本葉5葉期 以降、雑草生育期	300 ~500ml	100 ~150ℓ

※必ず農薬のラベル等を確認し、使用方法を遵守する。

※使用方法が**畝間処理・雑草茎葉散布**のみの剤は、大豆の茎葉に掛かると薬害を生じるため**専用ノズル等を使用する。**

※「**シュウリュウ**」は大豆バサグラン液剤に対する感受性が高く、薬害が発生しやすいため**生育初期（3葉期頃まで）の使用は避ける。**

畦間処理のポイント

【耕種条件】

- ・圃場に凹凸がなく均平
- ・排水が良好
- ・条間隔が均一
- ・大豆の苗立ちと初期生育が均一

【散布時の条件】

- ・雑草は15cm以下の大きさ
- ・無風~微風
- ・水田転換畑では圃場がぬかるまないこと、
又はぬかるんでも凹凸が少ないこと

帰化アサガオ類の防除について

- ・**帰化アサガオ類は発生を放置すると防除がきわめて難しくなります。**
- ・発生を確認したら、**早急に刈取るか有効な茎葉処理除草剤で防除し、拡大を防ぎましょう。**
- ・種子を作らせないように**開花・結実前に防除**することが重要です。



写真 帰化アサガオ類（マルバルコウ）が繁茂した大豆圃場
(令和4年9月 鶴岡市)

熱中症に注意！ こまめな水分補給と休憩を取りましょう！